

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

食・運動・睡眠等日常行動の作用機序解明に基づくセルフマネジメント

3. 研究開発課題名

幼少期の咀嚼機能が健やかな発達をもたらす作用機序

4. 研究開発代表者名(機関名・役職は評価時点)

加藤 隆史(大阪大学大学院歯学研究科 教授)

5. 評価結果

評点: A (優れている)

総評:

本研究開発課題は、咀嚼が心身の発達に作用する生理学的機序を解明することにより小児の健康な発達を目指すものである。

探索研究期間では、閉塞性睡眠時無呼吸症候群の関連因子と口唇閉鎖不全、口唇閉鎖不全と不正咬合、口腔機能と睡眠や問題行動などに関する知見を獲得し、口腔機能や咀嚼機能と睡眠・定型発達との関連を明らかにしたことを評価する。

また、評価方法や評価基準の開発については、小児に対して様々な口腔機能や顎顔面形態の検査を実施するとともに、睡眠や発達状態などの多面的なデータを継続的に収集できる環境構築も着実に行われ、優れた成果が認められた。

今後は、社会実装やその先の実用化に向けて研究開発が発展することを期待する。

以上